

上田市教育委員会 2 月定例会会議録

1 日 時

令和 3 年 2 月 1 2 日（金） 午後 3 時 0 0 分から午後 4 時 3 0 分まで

2 場 所

上田駅前ビルパレオ 5 階 上田市教育委員会 第一会議室

3 出席者

○ 委 員

教 育 長	峯 村 秀 則
教育長職務代理者	北 沢 秀 雄
委 員	横 関 妙 子
委 員	綿 谷 憲 一
委 員	森田 小百合

○ 説 明 員

中澤教育次長、池田教育参事、山賀教育総務課長、翠川教育施設整備室長、緑川学校教育課長、竜野生涯学習・文化財課長、西嶋人権同和教育政策幹、池田スポーツ推進課長、小泉中央公民館長、浅野上田図書館長、滝澤上田市立博物館長

1 あいさつ

コロナウィルスの関連だが、諸外国に遅れをとっていたコロナウィルスの予防接種がいよいよ動き出す。まず、医療関係者を優先にして65歳以上の方から先に接種をしていくような形で進んでいる。教育委員会としては、市民の命を守るという観点で全面的に協力をしていきたいと考えている。ただいま、計画の中では中学校ごとに予防接種を行うというような計画が練り上げられているが、教育委員会関連では一部の公民館、城跡公園の第二体育館が接種会場として上がってきている。先ほど申し上げたように、教育委員会としても全面的に協力をしていきたい、そう考えている。1日も早くコロナ禍が終息していくことを望んでいる。

2 協議事項

(1) 第二次上田市スポーツ動推進計画について（スポーツ推進課）

○資料1により池田スポーツ推進課長説明（要旨）

資料1をご覧ください。

1. 名称 上田市第二次スポーツ推進計画

2. 策定の趣旨について

12月の定例会で申し上げたご報告と変わりはないが、中段のところで「生涯スポーツ社会」の具現化に向けた施策の推進を図るための指針として「第二次上田市スポーツ推進計画」を策定するもの、本計画は第二期の計画というものである。

3. 経過について

令和元年・令和2年に審議会において11回の審議をいただいた。当初、市民アンケートを実施しながら、12月から1月にかけてパブリックコメント（市民意見募集手続）を実施したところである。パブリックコメントの結果は、特段ご意見は頂戴しなかったもので、これをもって1月29日に審議会から教育長に答申をいただいている。答申を最大限に尊重し、文言等の修正は行いが、この答申を計画案とする。

4. 計画の概要

こちらも12月にご報告した内容と特段変わってはいないが、計画の推進として最後にまとめの部分を入れている。また、12月にご意見を頂戴したボランティアの育成、情報発信、新しいスポーツについては、この計画案の中に入れ込んであるのでご覧ください。加えてSDGsの関係についても、第二次総合計画と同じ項目として中に記載をしている。

計画については以上である。

峯村教育長

ただいまの説明について、ご意見等があればいただきたい。

横関委員

本件の策定にあたっては、大変な御努力をされたことは資料を読んで伝わってきた。市民のアンケートの内容もすばらしかった。項目も多岐にわたっていて、スポーツのみならず、市民がどのような生活をしているかというところまで考察しながら、この計画を立てたというところがすばらしいと思う。私が言いたいことが市民アンケートにほとんど載っていた。また、聞きたいところも載っていた。こちらの市民の声をぜひ大切に活用していただきたいと思う。その上で何点か質問をさせていただく。アンケートの結果のところ、75ページの16について「あなたの職場を拠点として運動・スポーツを習慣化する取組みがあれば、今より運動・スポーツを実施する頻度は増えると思うか」という問いの答えだが、右下の考察には、「70歳以上が無回答」と「このテーマに対する関心の低さを反映するものと思われます」と記載があ

るが、70歳の方は、あなたの職場というものがないと思う。それをもってこのテーマに対する関心の低さを反映するという文言は不要だと思うがいかがだろうか。

池田スポーツ推進課長

通常、一般的であれば60歳定年、あるいは65歳定年というような状況であるが、一方で自営業の方、あるいは役職に就いている方で70代においても仕事をされている。もう一步踏み込めば、農業等についても職業ということでの捉え方をするとこのようなことになるかというまとめになる。ただ、横関委員がおっしゃるように一般的にはそのとおりというように考えるが、そのようなテーマに対する関心の低さを反映するもの、というところを入れるか入れないかは考えたいと思う。

横関委員

本アンケートの中では、結果を記していることが主だと思うので検討してほしいと思う。そのほか、12月の定例会でも説明があったが、基本目標1から4の優先順位について、アンケートではスポーツ施設の整備が一番上田市のスポーツ振興対策に大事と掲載されていたが、それを受けて1から4というものは、優先順位で付けたことで間違いはないか。

池田スポーツ推進課長

こちらについては優先順位からきているものではない。まず、生涯スポーツ社会の実現というところが一番大きな目標テーマになるので、それに関するものが基本目標の1ということで生涯スポーツの振興である。続いて、基本目標2の競技力の向上、こちらについては、国民体育大会もあるのでそのようなところでこちらを2番目にもってきている。施設整備はご指摘のとおり、施設の老朽化というようなところでアンケート結果を踏まえて施設整備を3番目、そして地域づくり交流拡大ということで特段アンケートをもとに優先順位をもとにつけたわけではない。それぞれ重要な目標ということで、この順番は何か意図があって、あるいはこの順番どおり重点をもって行っているわけでもない。

横関委員

そのほかに質問させていただくが、34ページのスポーツボランティアに関してだが、スポーツボランティアを行ったことがない方々がいらっしゃると思うが、国民スポーツ大会に向けてボランティアの育成が課題となってくると思う。これから内容を詰めていくことだと思うが、池田課長としてはスポーツボランティアを増やすためにどのようなことをしたらよいかお考えか。

池田スポーツ推進課長

スポーツに自ら取り組む実際の競技なり体を動かすということが難しい年代の方、あるいは身体状況の方がいらっしゃると思う。ただ一方でスポーツに関しては、「する、みる、ささえる、つながる」ことでの文言を入れている。その中での「ささえる」という部分にボランティアということになってくると思う。具体的にこれはボランティアの育成に効果があるだろうということはなかなかすぐには出てこないが、例えば、スポーツをみることによって関心が湧いて私もボランティアを行おうか、あるいは各種団体があるが、またはニュースポーツなども簡単に体験することによって、実際はハードな競技はできないけれど大会の手助けができるなど、何かしら関りを持っていただくことができるような働きかけを、それぞれの団体、それぞれのところで行っていくことで少しずつ増えていくのではないかと考えている。また、私ども

で主催をしているハーフマラソンやあるいは太郎山登山競争、また丸子で行っている爆水RUN等、大勢のボランティアの皆さん方に参加していただいて大会が成立しているので、そのようなところから少しずつ広げていくことも1つの手だと思っている。加えて、国体に向けてということで、体協の加盟団体、あるいはスポーツ少年団、高校・中学の部活動というようなところの生徒の皆さん方の手を少しでも借りられるような仕組みというものができてくれればよいと思っている。実際は、今申し上げた大会等については、スポーツ少年団、各競技団体でのお手伝いをいただいているところなので、そのあたりのところから高校、中学の運動活動の子どもたちの手もというようなことも視野に入れながら進めていきたいと思っている。

横関委員

アンケート調査報告書の64ページ問27、「スポーツが個人や社会にもたらす効果について」の回答で、66ページ10代を見ていただくと「人と人との交流」「豊かな人間性をつくる」と多くが答えている。素晴らしいと思う。「人と人との交流」これはすごい値で94.7%の10代が答えている。そうしたことから、ボランティア活動へいかにつなげていくかということが大事なことだと思う。例えば、スポーツボランティアに関連する各種団体が主催する講習等があると思う。スポーツボランティアについて学ぶ機会があると良いと思う。知ること、スポーツボランティアへの意欲を高めていただけたらと思う。

続けてだが、38ページの「信濃の国 上田 健幸体操」だが、普及状況についてはどのような状態なのか。

池田スポーツ推進課長

「信濃の国 上田 健幸体操」は、健康推進課の主催で総合型スポーツクラブ等に対して委託をし、各地域での普及を図っていただいている。また、総合型地域スポーツクラブは市内に4つの団体があり、その中で協議会を作っていただいている。今年度はコロナの絡みで開催ができなかったが、協議会の事業としてイオン、アリオモール等のところで、実際に運動してお客さまと一緒に踊っていただくような取組を2年前ぐらいから行っている。少しずつ普及はされているのではないかとと思っているが、統計自体は私どもの方ではとっていない。どの程度の普及率なのかは何とも把握しかねるところである。いずれにしてもこの健幸体操に限らず、体を動かすことは体力の向上につながることで、いろいろなアプローチの1つとして進めていきたいと思っている。

横関委員

これは8年前のわがまち魅力アップ応援事業の取り組みだと思うが、だんだん子どもたちも変わってくる中で子どもたちでも作曲や編曲等できるようになってきている。GIGAスクール構想もはじまる。例えば、子どもたちが自ら曲を作り、自らダンスを考えてそれを動画にしてその動画で大会を行うなど、体を動かすために何かわくわくするような仕掛けがあればよいと思う。丸子中央病院でも新型コロナウイルスに負けない地域づくりを大切にと、信濃の国の動画をアップしたりしている。信濃の国は皆さん、自分たちの故郷を大事にしているところがあるので馴染みやすいと思う。丸子中央病院の動画は、ピアノ、ヴァイオリンと歌のバージョンだが、それだけでも運動はできると思う。さまざまなバージョンで運動していくことは必要だと思う。

また、若者たちのスポーツ離れということが言われている。テレビは見ないけれどゲームをするとアンケートにもある。eスポーツの可能性についてもスポーツではないという方がいら

っしゃるが、これからどうなのか考えていただきたい。また、アーバンスポーツを取り入れたまちづくりをしている市町村もある。その可能性についても考えていただいて、若者やみる側も楽しめるスポーツを期待したい。

池田スポーツ推進課長

子どもがわくわくする仕掛けは、また関係課と協議しながら何かしら考えていきたいと思う。e スポーツについては前回もお話したが、e スポーツについてはいわゆる身体を動かすものではないので、私どもが所管するスポーツとしては捉えていない。それはご承知いただきたいと思う。動画の配信については、今般コロナの関係で私どものスポーツ推進課、健康推進課、高齢者介護課等でいろいろな先生方をお呼びしたり、あるいは私どもの関係とするとブリリアントアリーズというバレーボールチームの皆さん方が、ストレッチ等で体を少しずつ動かしましょうとネットで動画を配信し行わせていただいている。確か健康推進課の方では「信濃の国 健康体操」の動画を流している。そのようなことで引き続き行っていきたいと思う。

峯村教育長

先ほどの大会を支えるボランティアの育成については、池田課長が大変難しいと言うように答弁された。私も確かに難しいと思う。私はいろいろなスポーツイベントに参加してボランティアの皆さんが、例えば、古戦場マラソンでは豚汁の炊き出しをしている、爆水RUNでは地域で採れた野菜を婦人会の皆さんが出してくれる。そういうそれぞれの地域で心温まる活動があり、非常に市民の皆さんが支えてくださっていることを感じている。そこにおいでになるキーパーソンの方を通して、ボランティア組織を充実していただく。それに対してこちらの感謝の気持ちをもって、お願いしていくことが大事かと思っている。

横関委員

地域の人材を活かしていかなければと思っている。

森田委員

資料8ページのところで「20代から30代にかけては、体力に不安を抱えている人の割合が増加している。」11ページでは、週に1回以上スポーツを実施できなかった割合は、「仕事や家事が忙しいから」、「面倒くさいから」、「子どもに手がかかるから」などと生涯スポーツ社会を目指していく中で高齢者に焦点を当てるだけでなく、働き盛りの成人が健全に体力を増進しながら、ということが大切だと思っている。どうしてもスポーツというと競技や何か特定の場所で行ってすること、そのようなことが主になっていると思う。日常生活の中で取り組んでいけるような提案を健康推進課などと連携を図って、子育て中の人や会社に勤めている人たちが体力づくりを進めていける企画を進めていただきたい。

スポーツを「する」・「みる」・「ささえる」・「つながる」のまとめ方として、34ページから具体的取組のキーワードを明記しながら表現しているのは非常に分かりやすいと思う。またSDGsとリンク付けながら明記されていることでも分かりやすいと思う。この4つの中で「ささえる」・「つながる」というものは、これからのスポーツ推進の中で一番重要なことを記している。社会的に健康推進に関し影響力が高いので、いろいろなことを併せながらスポーツ推進の計画を進めていただきたい。

池田スポーツ推進課長

34ページの基本目標1の生涯スポーツの振興ということで、その中にこれが全体を網羅しているということだが、審議会の中でもアンケートの結果も見ながら、今おっしゃられたような働く世代というのはどうしても皆さん方の意識もそうだが、実際にできるかできないかというところを課題として挙げた。実際に体を動かさないにしても先ほどボランティア、あるいはみるスポーツということも含め、何かしらスポーツに携わっていかれるところもそうであるし、アンケートで非常に多かったのはウォーキングである。施設もそのようなところがほしいとの回答があった。身近にウォーキングができるコースがほしいとのことで、何かしらそういったものがあれば、そこへ行って歩くような人が増えればといった働きかけも行っていきたいと思う。

峯村教育長

ご意見として大事にしたいと思う。

北沢委員

2つお願いしたい。まずは31ページの基本理念はよいと思う。基本理念を実現するための「4つの視点」として、スポーツを「する」・「みる」・「ささえる」、これは国から示されている。4つ目の「つながる」は上田市で考えた項目で大変素晴らしいことだと思う。ただ、この文章を読むとやや分かりにくい。「つながる」は、どちらかという生涯学習課で出してもよい文言である。大事な視点であり素晴らしいと思うが、つながっているのは、何と何がつながっているのか、具体的なもので示していただければ理解しやすい。

2点目は、27ページの(2)の競技力の向上に関して、競技力の向上と過度な運動量、過度な運動時間については、特に中学校における部活動の中で、どのように整合していくのか。総合型地域スポーツクラブをどのような位置づけで考えているのか。競技力の向上を謳った意図と、どの場で具現化していくか。

池田スポーツ推進課長

「つながる」の部分だが、46ページからスポーツを通じた地域づくり、これが答えというところで施策、取組である。具体的に何と何がつながっていくのかは、上田地域と端的に分かりやすく言えば、47ページのスポーツツーリズムの推進があるが、こちらは直接スポーツというだけでなく観光的な要素を含めてということでこの地域と上田以外のところ、特に県外になろうかと思う。そういったところとつながる部分、それと上田市は菅平高原があるので、夏は合宿で大学生を中心に、冬場はスキーで県外から多くのお客さまがお見えになる。そういったところでのつながりということを踏まえてつながる。また当然のことながら、自治会や地域の中でスポーツを行っているところもある。そういったところでのつながりも含めてつながるというものを4つの視点の中で入れている。

2つ目の競技力の向上で端的に言えば部活動の絡みだが、当初、競技力の向上の中に中学校の部活動の部分も入れ込んであった。しかしながら審議会委員の中からも指摘があり、中学校の部活動のあり方の見直しの中で競技力は求めないということなので中学校の文言は外した。では、幼少のころからどんどん積み上げていかないとトップアスリートの育成は難しいということがある。そこは中学校の部活動では求めないが、総合型地域スポーツクラブ、あるいはスポーツ少年団はどちらかという競技力というよりも青少年の健全育成のことが強いが、やはり技術的なこともあるのでスポーツ少年団、それともっと申し上げれば体育協会の加盟団体が競技ごとにあるので、そちらを加味しながら個人がどうしても技術の向上を求めたいというならばそのようなところで技術の向上を図ってというようなことになるというように思っている。

北沢委員

最初の回答、地域と他地域、それから自治会は結構だと思う。こちらに関しては横関委員が絶賛する中で人と人との交流を含んでよい。「する」・「みる」・「ささえる」中で、人との関わりや絆は大事に考えていきたい。

2つ目の回答については、審議委員のメンバー中に県のスポーツ課にいた上田三中の齋藤校長がいたので、そのような回答だと思う。ただ、27ページのところでジュニアから成人まで記してあるが、今、池田課長が答えた内容を上田市としては大事にしていきたいと思う。競技力の向上となると、地域総合型スポーツクラブであれ、体協であれ、いろいろな大会が毎週のようにある。そのこととも絡んで難しい問題もあるので、競技力の向上については慎重に考えていくべきだと思う。また池田課長がお答えになった「個の求めに応じて」ということは大事なことだと思う。私は競技力向上を全体に求めることは問題があると思っている。

綿谷委員

いろいろとデータを分かりやすくまとめていただいた。内容がいろいろと多くあって実行していくことは大変だと思う。ただ、生涯スポーツというものを幅広い範囲で行ってもらおうということは非常に大事なことだと思う。少子化人口減少でこれから40何年か経つと人口が10何万と少しになってしまうその中では、今のコロナという例もあるので、その中では上田市は健康都市で魅力のある所であること、スポーツを通じて人間形成ができる地域だということをどんどん発信していただきながら、やはり上田に住みたいというような活動を進めていただきたい。健康寿命というものを延ばしていかなければいけないことは、それは若いときから行っていないと我々も60後半になってきて、それを行うかといってもなかなか身体が動いていかない。若いときから行えば、スポーツに親しみながらある程度の歳になっても続けられるそのような形で計画を進めていただきたい。スポーツの大切さを思っている方は85%近くいるわけだから、非常に関心の高いことだと思う。上田市は人口減少していくことを考えると、運営も非常に厳しいことにもなるという考えもあるが、その中で上田市をまた構築していくことにおいてもこの計画は非常に重要なことだと思うのでお願いしたい。

峯村教育長

大事なご意見として承らせていただく。

時間が押してきたので次に入らせていただく。

全員了承

3 報告事項

(1) 上田市学校施設長寿命化計画の策定完了について（教育施設整備室）

○資料2により翠川教育施設整備室長説明（要旨）

1. 概要については、パブリックコメント前に説明させていただいた経緯があるが、そのパブリックコメントを市政経営会議、部長会議等で庁内決定されたということでご報告をさせていただきます。

パブリックコメント前の10月22日の定例教育委員会でご説明した内容と大きく異なる点については、全庁的な個別施設計画を進める中で資料の2. 対象施設のところに記載があるが、(4)のふれあい教室の関係について整備対象の施設に加えたところである。後ほど緑川学校教育課長から説明がある。

3. 施設整備の考え方については、(1)から(4)まで資料記載のとおりである。

4. これまでの経過では、10月22日に定例教育委員会でご意見等をいただいた。11月16日から12月15日までパブリックコメントを実施し意見は0件であった。今後の予定については、3月に市議会にご報告をした後に公表をさせていただきたいと思う。

次に長寿命化計画の資料の表紙をご覧いただきたい。こちらは長寿命化計画の(案)と記載があるが、これで決定をしているので(案)を外させていただく。そして、下の箇所に令和3年2月の表示になっているが、最終的には3月に公表したいと考えているので2月を3月に訂正いただきたい。

峯村教育長

続いて、緑川学校教育課長にご説明をお願いしたい。

緑川学校教育課長

今、説明があった上田市学校施設長寿命化計画に追加して記載するふれあい教室についてご説明させていただく。

資料2の対象施設に記載があるとおり、この長寿命化計画には小中学校の学校施設のほか、学校関連施設である給食センターと教職員住宅が記載されている。同じ学校関連であるということで今回ふれあい教室についても計画に記載するべきだとして追加をさせていただいている。計画の対象施設については、延床面積が200㎡以上であることから、市内の5つあるふれあい教室のうち、常磐城ふれあい教室、武石ふれあい教室の2施設について記載をしている。

3. 施設整備の考え方だが、(4)にふれあい教室を入れている。計画の対象となる施設についてはどちらも築40年以上となっており、必要に応じて修繕等を行いながら現状を維持しつつ、児童が安心できる場所を整える必要がある。ふれあい教室は、学校に通うことに困難さを抱えている児童生徒に社会的自立や学校復帰に向けた支援を行う場所として重要な役割を担っている。ほかの施設の有効利用も視野に入れながら通室する児童生徒や施設の状況なども含め、今後の動向に見合った施設のあり方について検討してまいりたいと考えている。

峯村教育長

ただ今の件についてご意見等をお願いしたい。

よろしいか。

○全員了承

(2)放課後児童施設個別施設計画について(学校教育課)

○資料3により緑川学校教育課長説明(要旨)

資料3をお願いしたい。

1. 策定の背景と目的

先ほどの長寿命化計画と同様に子育て支援施設の個別施設計画として、令和2年11月に開催した子ども・子育て会議における審議を踏まえて、放課後児童施設個別施設計画を策定している。

2. 対象施設

(1)児童館11館、(2)学童保育所、児童クラブ26館となっていて、本計画では資料、個別施設計画(案)4ページから6ページにかけて記載をしている。

3. 施設整備の考え

他の計画と同様に、30年で大規模改修、60年で更新（建替え）を基本とする。施設の現状については18ページ、19ページに記載をしており、今後、国で示す「新・放課後子ども総合プラン」に則り、放課後児童クラブの整備については、学校施設の活用を優先して検討し、民間の賃貸物件の利用も検討とする。また、児童館については、原則更新をしない方向で検討する。

小学校内の施設については、「上田市学校施設長寿命化計画」と連携し、必要な整備を行ってまいりたいと考えている。

峯村教育長

ただいまの説明について、ご意見、質問をお願いしたい。

北沢委員

資料4ページに児童館が掲載されているが、上田市の小学校は記されている児童館以上の数があるが、どういう基準で児童館は設置されているのか。

緑川学校教育課長

児童館は当初は健全育成事業ということで、当初はそれぞれ学校の方で児童館を設置していた。現在は、保育を含めた部分の中で学童保育所のところに移行してきている。先ほど説明の中に入れさせていただいたが、今後児童館については、放課後児童施設の方へ移行していくということで今後、施設については更新していかない方向で考えている。

北沢委員

児童館は施設があるので分かるが、児童クラブはどのように考えればよいか。

緑川学校教育課長

大まかに言うと児童館は登録制にはなっていない、一旦自宅に帰りランドセルを置いて通ってくるような施設である。対象も18歳までということで、小学生のみという対象とはなっていない。学童保育所と児童クラブについては、登録制となっていて登録された子どもたちが学校からその場へ直接行って保育を受けるというようなことになっている。児童館の利用について利用料はかからないが、学童保育所と児童クラブについては一定の利用料を払っていただく施設になっている。

北沢委員

両方の施設、例えば武石の児童館と学童保育所ピーターパンは、両方とも設置場所が武石小学校と記載があるが全く別物なのか。

緑川学校教育課長 峯村教育長

武石は児童館、学童保育所、と2つあって全部同じ場所で部屋が別になっている。それぞれ運営主体が違うことや、例えば、児童館だとNPO法人のワーカーズで、学童保育所だと地元の保護会の方で請け負っていただいている。

北沢委員

上田市の全小学校で、放課後、保護者が面倒を見ることのできない子どもたちに対し、対応できる施設が整っているか。全て揃っているようには見えない。地区によって温度差があるこ

とや、優遇されているところとそうでないところがあるように見受けるがその点についてはいかがか。

緑川学校教育課長

児童館については各小学校全部にはない。学童保育所・児童クラブについては全ての小学校に1つずつはある。

北沢委員

手厚いところと手厚くないところそのことについてはいかがか。

緑川学校教育課長

それぞれの学校規模に応じて通ってくる子どもの数も違う。その部分で施設が多かったり、2箇所に分かれていたりなどがある。それが手厚いか手厚くないかというところそれぞれ平等な形で整備はしているつもりである。

峯村教育長

利用料があるかないかというところも公平性の観点からすると検討しなければいけないところではある。

他ほかにはいかがか。

森田委員

ここで一番の課題は資料の2ページ中段下にあるように、「施設の改修等の検討が必要な状況であります。全ての施設を整備するためには財源の確保が大きな課題となります。」とあるが、やはりこちらはこれからもついてまわっていくことで、児童館、放課後施設の運用について今後、抜本的に従来のあり方と変えていく必要があると思う。先ほどもお話されていた民間施設を利用することとは、必ずしもその学校や既存の児童館を使うことではなくて、地域にある使える民間の建物を利用させていただくことによって、民間との連携による波及効果として、教育現場への産、官、学、金の連携推進が必要であると言われている。柔軟な運営の感覚で、継続的な捉え方で進めていく必要があるのではないかなと思う。このような提案も教育委員会の方からしていくことがあってもよいのではないかなと思う。従来の今まであり方では、施設の老朽化について財源をどこからとるのか、の繰り返しで、永遠に解決しないので、財源を確保するためには産、官、学、金というようなことを考えていく必要があるのではないかな。

緑川学校教育課長

今、お話があったとおり、個別計画自体は全て今ある公共施設を維持していくことは困難だという状態にきている。我々とすれば、これから新しく古くなった児童クラブなり改修を全部していく考えではなく、できれば学校の空き教室を子どもの数が減ってきているのでそこを利用させていただきたいと考えている。やはり民間の場所やほかの場所を考えたときに学校施設から離れるとそこへ移動することが必要になる。安全面も考え、また、例えば体育館やグラウンドがそのまま使えるので学校の空き教室の方向で考えていきたいと思っている。

峯村教育長

今、検討していただいているのは個別施設計画だが並んでいる。この意味合いについて事務局の方から説明させていただく。要は、上田市全体の施設整備計画をしなければいけない。と

ころが、教育委員会は上田市全体からは少し先行している。先行している理由は、学校施設の長寿命化計画がきっかけで先行している。というようなことで、上田市全体の施設について見直していく中の一環であることでご理解いただきたい。

翠川教育施設整備室長

特に学校施設の関係で、長寿命化計画ということで学校施設は延床面積が大きいので先行して教育施設整備室の方でまとめさせていただいた。特に学校施設の関係の国の補助金・交付金との関係が令和2年度までにつくらないと補助金がないようなことがあるので少し先行して行った。ほかの施設についても全て個別施設計画をつくりなさいよというような方向性が国の方からあるなど、それぞれ省が違うが、国の方から指導があって、市の方でも全庁的に個別施設計画を公共施設等総合管理計画の下での個別施設計画とした方向で動いている。

峯村教育長

今、説明があったように、国の補助金の締め切りが学校の長寿命化計画に待ったなしである。それを行うと同時にほかのところの施設整備計画を行うことであるが、これはほかの部局よりもかなり進んでいる内容である。そのことでそれぞれ整備計画をつくっているが、教育次長そんなに慌てなくてもよろしいか。

中澤教育次長

各種省庁から出ているのは、令和2年度に完成しなさいとお達しが出ている。しかしながら、上田市全体の公共施設を調べてみたが、進んでいるところと進んでいないところの温度差があり、本来だとこの3月議会の方に報告を挙げていくことが筋だが、間に合わないということもあり、大半の施設については6月議会に上程していくような形になる。今、申し上げたように学校の施設については待ったなしの状況であり、ここで作っておかないと令和3年度から事業に影響してくる。学校だけは先行して作っていくような状況である。先ほど教育長が申し上げたように、教育委員会はそれに連動してほかの施設の説明があるが、教育委員会所管の施設について概ね全部作り上げていこうという状況であるが、教育委員会だけ先行して行くと市全体の中では困るよということで、結局6月までほかの施設と歩調を合わせるような形で進んでいる状況である。

峯村教育長

時間を押しているので、資料をご覧ください要望という点でご指摘いただいて進めていければありがたいが。ほかの児童施設についてご質問があるかと思うが、要望としてご意見をいただきたいと思う。

横関委員

こちらは報告事項でよろしいか。

峯村教育長

決まってしまうことを報告事項として報告している。

横関委員

あとで何を言ってもということになるのか。

峯村教育長

教育次長どうしたものだろうか。今、ご要望を伺って変更するところは変更していけるのか。

中澤教育次長

しかしながら、市の施設全体が一定のルールが決まっていて、それにパッケージみたいな形に当てはめているという現状である。パッケージに合わないようなことを行うと問題があるかもしれないが、個別にそれぞれに修正を加えることは可能だと思うので、ご要望があればそれをまた反映していければと思っている。

峯村教育長

そのようなことで、ご要望を伺うということで今日はお願いしたい。

横関委員

施設評価シートの様式はほかも同じということか。

中澤教育次長

スタイルは一緒である。

横関委員

各施設で耐震性がなしと記載のあるところと未実施のところがあるが、こちらは統一させた方がよろしいのではないかと。耐震性がなしと記すのか、未実施と記すのか、図書館は未実施になっていたと思うが。

中澤教育次長

文言が違うということでそれは統一した方がよろしい。

峯村教育長

それについては検討させていただく。
ほかの児童施設についてはよろしいか。

○全員了承

(3) 上田市民館施設整備計画について（中央公民館）

○資料4により小泉中央公民館長説明（要旨）

公民館はこれまで利用者の利便性向上を目指して施設整備を進めてきた。現在、市内には9つの公民館と2つの地区公民館があり、そのうち全体の6割強に当たる6館、及び1つの地区公民館については改修工事が終了している。

今後、残る4つの施設については、築30年以上が経過しているため、計画的に改修を行いながら施設の長寿命化を図ることを第一に考えていく。公民館の改修については現状を維持するように考えている。

今後の課題としては、①老朽化した施設は新しくした改築したものも含めて施設の計画的な維持管理、②全ての世代に対応した効果的な施設機能の改善、③災害時の対応を考慮した施設の整備・運営、④Wi-Fi環境の整備を挙げている。

峯村教育長

ただ今の報告について、ご意見等があればお出しいただきたい。

横関委員

資料34ページの塩尻地区の公民館の耐震性は点数が1になっている。17ページでの耐震性は有と表示されているがどうなのか。

小泉中央公民館長

確認させていただきたい。

横関委員

24ページに、「必要に応じて公民館審議会での意見聴取などの実施」と記載されているが、できれば皆さんの意見を聴くことをほかの施設も行っているのをお願いしたい。

峯村教育長

パブリックコメントを実施したほうが良いということか。

横関委員

パブリックコメントもだが、公民館なので地域住民の声も聴いたほうがよい。必要があればと記されているが、図書館は意見を聴くと記されていたと思うが。

小泉中央館長

公民館については先ほど申しあげたとおり、残りの4館については築30年以上経過しているものであるが、当面の間、今後5年間については改修の予定はない。改修の際には、公民館運営審議会の委員の方から、市民や利用者の皆様から意見の聴取を行うようにという意見があったが、当面の間は現状維持ということで、今回においては運営審議会にお諮りし意見を聴取した。今後は必要に応じてパブリックコメントを実施してまいりたいと思う。

横関委員

資料の中にそのように記していただければよろしいかと思う。

峯村教育長

小泉館長その点についてはよろしいか。

小泉中央公民館長

了承。

峯村教育長

ほかにはいかがか。

よろしいか。

○全員了承

(4) 上田市図書館施設整備計画について（上田市立図書館）

○資料5により浅野上田市立図書館長説明（要旨）

A4サイズ1枚、概要の資料5をご覧ください。

1. 目的については、図書館の関係についても令和2年の12月に図書館協議会で協議をいただき、その協議を踏まえて策定するものである。
2. 対象施設は4つある。それ以外では創造館に分室があるが、こちらは広域連合の建物ということ、そのほか、武石公民館図書室施設ということで本計画とは対象外となっている。
3. 計画の一環は、令和2年度から令和7年度までとする。
4. 公共施設の更新・改築に係る将来費用の推計、こちらについては平成27年6月に公共施設白書に基づいて推計されている。
5. 施設評価は4つの評価があり、安全性、必要性、有効性、効率性のところを見ていくわけだが、上田図書館が老朽化ということ、また耐震性は未実施と耐震性はないということになると思うがCとなる。情報ライブラリーと丸子図書館についてハザードマップの関係があって安全性がBという評価になっている。必要性和有効性はそれぞれがAの評価になるが、効率性はDCDDと低い評価の理由は、図書館法で入館料が無料の施設と定められているが、効率性が低かった項目の中に「適正な受益者負担の有無」であることや「収入確保対策」の項目があって、これらが低い評価となっている。
6. 対策の優先順位の考え方であるが、（1）安全性が低い施設を優先して整備ということで、まずは上田図書館の整備が必要になっている。（3）の安全性の高い施設は、適切な維持管理を実施し、施設の長寿命化を図る。こちらは情報ライブラリー、丸子図書館、真田図書館である。（5）施設整備の実施時期は、緊急度や優先度、財源確保、その他特に優先して整備しなければならない事情などを踏まえ、市の実施計画と連携し、計画的に実施するという事で、多くの施設がある中で何等か実施計画の中で調整していく必要があるかと思う。
7. 工程表及び対策費用は、上田図書館については令和6年に改築の検討としている。3館については適切に維持管理ということである。※印の①公共施設の更新・改修に係る将来費用の推計に準じ、60年で建替えとされる令和12年を目途に改築を進めるということにしている。この60年は日本建築学会で示されている耐用年数である。公共施設マネジメント基本方針の中でも公共施設の5原則の中で可能な限り耐用年数まで更新を控え、今ある施設を大切に使うこととしているところである。こうしたこと、他の施設の整備の状況を見る中で、なかなか図書館の整備というものが具体化してこないわけだが、60年は目途として整備はしていくことで位置づけをしていきたいことである。先ほどお話をいただいた耐震性の関係については、上田図書館については、すでに50年経過という施設であり、耐震診断をしても耐震性はないということが分かっていることから診断をしていないことである。パブリックコメントについても、前回ご審議いただいた子ども読書の計画の関係については、パブリックコメントをしたが、これについてもどうしようかということで行政管理課に相談をして、もう少し施設の検討の中身が具体化したところでパブリックコメントをした方がよいだろうということで、今回はパブリックコメントをせず、審議会の委員のご協議をいただいて策定していくということである。

峯村教育長

4館ある中で、3館は整備計画の対象外である。上田図書館をどうするのかというところに重きをおいているということか。

浅野上田市立図書館長

今後、それぞれの3館も適切に維持管理をしていくわけだが、その中で上田図書館は改築の検討が必要だということである。

峯村教育長

ご要望をお伺いしたい。

森田委員

評価の中で丸子図書館と真田図書館は築9年と10年で新しいわけだが、効率性は評価がDと、効率性の項目として「適正な受益者負担の有無」や「収入確保対策」があるが、具体的になぜDという評価になってしまったのか。

浅野上田市立図書館長

上田図書館もDの評価だが、評価をするときに適正な受益者負担があるかどうかという項目、収入確保対策があるかどうかという項目、図書館は入館料をとらない施設だが、このような評価があって低い評価をつけざるを得なかったことから、全ての図書館で効率性が低いとなっているということである。

森田委員

ということは利用率が少ないのか、どのように解釈をしたらよいのか。

浅野上田市立図書館長

利用率が低いということではなくて、例えば、25ページをご覧くださいと効率性の項目の中に適正な受益者負担や収入確保対策の項目がある。図書館は収入を得る施設ではないので、資料を見ていただくと真田図書館でも1点、1点と点数になっていて、これを合計するとD評価という仕組みになっている。

峯村教育長

整備計画と効率性との関連。森田委員の質問から思うが、この効率性を外して施設整備計画を進めることはできないのか。

浅野上田市立図書館長

もう1つ、この4つの施設評価の項目というのはパッケージで決まっているものなので、評価をしなければいけないことである。その上の有効性の項目を見ていただくと直近の稼働率があり、このあたりでは評価の点数は高くなっている。そのようなところの面をおっしゃっているのであれば利用もされていて稼働もしているという捉え方になる。

森田委員

受益者負担の上で考えると、利用料をとらない施設なので低くならざるを得ないことがあるかもしれないが、そうすると考え方として当たり前だとなってしまうので、わざわざここへD評価をつける必要はあるのかと思ってしまう。

浅野上田市立図書館長

行政管理課ともう一度協議をして、今回はただD評価にしておくとなぜだということになるので、※印をつけて説明を加えたというやり方にしたが、そうではなくて、評価自体を外せるかどうかはまた相談をしたいと思う。

池田スポーツ推進課長

国からでている長寿命化計画作成のマニュアルがある。その中に項目が列記されており、各施設の個別計画の施設計画をつくるのにはそれを入れなければいけない。私どもは30年度につくったが、スポーツ庁から出ているガイドラインに則ってつくった。やはりその中にも経済性というものが入ってきて、図書館も今おっしゃられたとおりで、入館料もとらなければ貸出料もとらないところなので、そもそも経済性というものはあり得ない。ただ、国の方で示している長寿命化計画を作るものについてはそういった経済性の部分を入れなければならない。入れざるを得ないということ。

森田委員

そう考えると仮にBであっても問題はないということか。

池田スポーツ推進課長

問題ないことだと思う。

北沢委員

私もこの項目は必要がないと思った。ライブラリーはCの評価があるが、住民票等での徴収があるのでライブラリーだけがCになっているのか。資料を読めばライブラリーもDの評価でもよいと思うが、基本的に図書館はお金を徴収しないので、同じ図書館でCとDがあることはどうなのか。

浅野上田市立図書館長

Cになったのは情報ライブラリーにはセミナールームがあり、利用料金を徴収する。そこは条例の中で利用料金が一定であり、一部は受益者負担を求めているところである。そこは点数をつけたところDではなくてCになったということである。

峯村教育長

パッケージということが頭になくて除去してもよいと思ったが、仕方がないことでCやDがついていてもおそらく国は受け付けるということだと思う。

浅野上田市立図書館長

行政管理課にもいろいろと聞いてみたが、そのような形の指導であると言われた。

峯村教育長

全国的に図書館をもつ意味では同じだから、全国から集まってくるものはCやDになっている。

浅野上田市立図書館長

たぶん、そのようなことになると思う。

北沢委員

上田図書館が老朽化しているため、早期に建設をと要望しているが、なかなか実現できない。上田市らしい文化の薫りがする、市民が本当にあこがれる、市内各図書館の中でも中心的な図書館を建設してほしいと思う。県外の美術館、博物館等が同居する複合施設的な図書館をいくつか見てきた。上田市らしいすばらしい図書館をつくってほしい。

峯村教育長

浅野館長、検討をお願いしたい。
このあたりでよろしいか。
では次に入る。

全員了承

(5)博物館等施設整備計画について（上田市立博物館）

○資料6により滝澤上田市立博物館長説明（要旨）

総務省からパッケージできて、自動的に数字は決まっている性質のものである。さらには、上田市の中で教育委員会よりは行政管理課からきているものである。機械的に割り振られていて博物館の下にある旧丸山亭は倉庫であるが建物として数えられている。資料記載の上6施設のうち、武石ともしび博物館をのぞく5施設は全部博物館、あるいは博物館の分館、倉庫といったものである。丸子郷土博物館は総務課に同居して公文書館と併用している。市立美術館に関しては政策企画部の所管、池波正太郎真田太平記館については商工観光部観光課の所管、自然館ならびに真田氏歴史館については、真田地域自治センターと観光課の所管のものであり、それをまとめたものがこの資料である。資料を見ていただくと、博物館で協議して古い建物ではあるが現状維持をした上で改築の方向へ向かっていければということである。5の施設評価にある効率性の部分でCとDがある。新しい施設の市立美術館、真田氏歴史館はBである。単なる倉庫であるところの分室はDになってくる。6. 対策の優先順位の考え方として、本文で17、19ページになるが、(2)の集約化を優先してというところがあるが、いずれはバラバラのこういった施設を集約して改築する方向への考え方が必要だと思う。ただ、現時点で7. 工程表及び対策費用については、検討委員会が令和7年となっているが、実施計画には毎年出してはいるが、項目計上という形になっていて、以上のような形で全市的なマネジメント資料という形で作らせていただいている。

峯村教育長

それではご要望をお願いしたい。

横関委員

博物館等施設整備計画（案）の資料21ページの第7章2段目、整備計画の実現にあたっては他の施設整備計画でも同じようなことを言っているが、「整備計画の実現にあたっては」から後の文言は各施設でいろいろと違っていて、どことどのように話し合う、パブリックコメントをする等いろいろとある。どんなスタンスでどんな人と相談をして計画の実現にあたっていくのかというところをもう少し明確にしていきたい施設があるのでお願いをしたい。

また、資料を見ると、この後5年間耐震性のないところに住民がいるという現実はある。そのあたりは教育委員会としてどのようにするのか、市民の安全を守るために知恵を出し合って考えていただきたい。

峯村教育長

滝澤館長、検討をお願いしたい。

滝澤市立博物館長

博物館協議会で協議をさせていただいている。パブリックコメント等は、建替え等の目途が立ってくるようなプロセスの中で、市民のご意見を伺えればと考えている。

峯村教育長

ほかにはいかがか。よろしいか。

○全員了承

(6) 企画展「ひな人形と春のことほぎ」について（上田市立博物館）【説明なし】

○資料7

(7) スポーツ関係市長表敬訪問について（スポーツ推進課）【説明なし】

○資料8

(8) 寄付の状況について（学校教育課 真田図書館）【説明なし】

○資料9

(9) 行事共催等申請状況について（学校教育課 生涯学習・文化財課 スポーツ推進課）
【説明なし】

○資料10-1 10-2 10-3

峯村教育長

(6) から (9) まで何かあればお出しいただきたい。

今回、公民館だよりは、発行時期と資料提出期日の関係でお送りできなかった。

横関委員

資料9の学校教育関係寄付の状況について、1番の山浦さまから600万円も寄付をいただいている。市民の皆さまの善意に感謝を申し上げたいと思う。

峯村教育長

全体を通してほかにはいかがか。

小泉中央公民館長

先ほど、横関委員からお話をいただいた塩尻地区公民館の耐震性の件を先方に確認をしたところ、この施設評価においては診断にC、または耐震性なしだが1の評価になっている。建築年月日が昭和56年3月となっていて、56年当時に耐震化という基準が出た際に建築された。耐震性については自主設計と確認したところだが、年月的には耐震性がある施設を建てている

時期ではあるが、だいぶ古い建築年月日ということで資料 17 ページの耐震性が有という明確な基準がないことで 1 という評価にしたという理由ではある。時間がないので再度確認をして説明させていただきたい。

横関委員

未実施ならば未実施ということで掲載していただきたい。

峯村教育長

全体を通してよろしいか。

それでは以上で 2 月の定例会を終了する。

○全員了承

閉 会

教育委員会会議規則第 21 条の規定により署名する。
